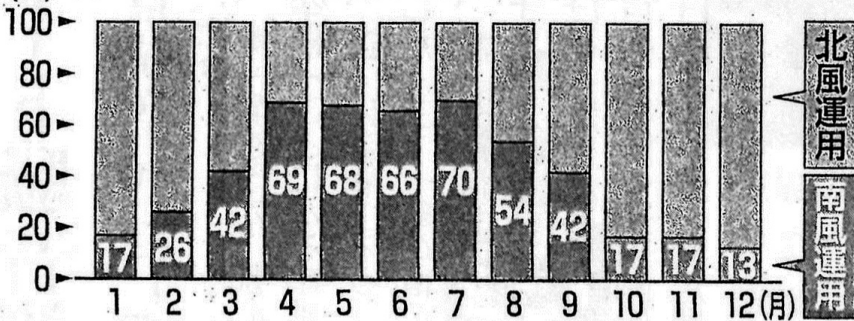




## 住民無視の低空飛行、いよいよ実施へ

### 羽田空港、月別の「北風運用」と「南風運用」の割合

(%) (2016~18年。午後3~7時の平均。国土交通省調べ)



南風運行は冬は約2割、夏は約7割です

# 羽田新ルート問題 2月より7日間程度の実機飛行 南風時3時~7時に品川を羽田着陸機が

### 予告なく

### 「その日」が

国土交通省の「お知らせ」が1月28日の新聞折り込みであり、チラシには実機飛行の説明がありました。

国交省は羽田新ルートの運用開始を3月29日とし、それに先立って南風ルートの試験運用として2月より7日間程度の実機飛行確認を行う考えです。

羽田空港の離発着ルートは北風運行と南風運行の2種類あり、問題の品川を低空飛行するのは南風運行の時です。

羽田空港では概ね冬

は北風運行、夏は南風運行ですが、国交省の調べでは問題の2月における南風運行は26%。しかし、どちらの運行が行われるのか、つまりいつ品川を実機飛行が低空で飛行するのかは、国交省からの事前予告はありません。

住民はもちろん、実機飛行はその名の通り、実際の旅客機を使用しますが、乗客の方にも事前予告はありません。つまり「その日」は突然に来到するという事です。

裏へ

# 深刻な住環境への影響

実機飛行は午後3時から7時の間で、前後の切り替え時間を踏まえると実質3時間です。

かつて羽田空港は品川の上を通過し着陸するルートを採用していました。当時の様子について「騒音は、すさまじかった。あれが、また繰り返しされるのと思うとぞっとする」「テレビの音も電話の声も聞こえなくなるほど。窓ガラスがガタガタなった」と話します。当時の便数は1時間あたり20機前後。今回は2ルート合計で1時間に44機と、当時の2倍以上ですから、騒音をはじめ住環境への影響は深刻です。

## 今でも飛行機が

昼夜を問わず、今でも

旅客機が品川を低空で通過する時があります。これは着陸やり直しの時に通過するもので高度は低い時で約1000m。羽田新ルートは大井町駅で約300mとの説明ですが、現在の着陸やり直しでも、騒音の大きさに驚かれる方もいるのではないのでしょうか。

住民の強い反対世論や品川区議会の「容認できない」との全会一致の決議を無視して、実施が強行される羽田新ルート計画。ここでも安倍政権の強権政治が、区民生活を襲いかかっています。

## 品川区民投票の成功を

1月18日スタート集会に160名




荏原第五区民集会所（下神明駅近く）

住民無視の計画強行に対し、区民の民意を示そうと、羽田新ルート計画の賛否を問う品川区民投票の成功をさせる会が1月18日に発足し、住民投票の実施を呼びかけました。

これは地方自治法に基づく直接請求で、住民投票の実施には、有権者50分の1の法廷署名と、区議会過半数の賛成が必要です。

区民の民意を示すことができるよう、住民投票の成功に力を注ぎます。なかつか亮

なかつか亮 1975年品川区西大井生まれ／44歳／03年に27歳で初当選し、5つの常任委員会をはじめ、予算・決算委員会副委員長や行革特別委員会委員長を経験／区議5期／党区議団幹事長／家族：妻／29号線認可取消裁判原告／趣味：料理、旅行 

なかつか亮の駅前宣伝 火曜日朝7時半～大井町駅、金曜日朝7時半～西大井駅、土曜日夕方4時～大井町駅  
スタッフ募集：区政報告を駅前宣伝で配付して頂ける方を探しています。少しの時間だけでも助かります。